

都市再生整備計画 事後評価シート

御代田地区

平成26年2月

長野県 御代田町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	御代田町		地区名	御代田地区			面積	996ha		
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	1828.9百万円	国费率	0.400				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(小田井追分線、御代田停車場線、塩野御代田停車場線①、雪窓向原線、西宮原長坂線、西城西宮原線、関屋寺沢線①、関屋寺沢線②)、一里塚国道線、御代田佐久線、西軽団地内1号線、東台8号線、東雪窓12号線、槻ヶ丘別荘地内3号線、上小田井雪窓線、児玉荒町線、聖原線、雪窓平和台線)、公園事業(浅間しゃくなげ公園)、地域生活基盤施設事業(地域防災無線、ポケットパーク、地域案内板、下藤塚地区水路)										
		提案事業	地域創造支援事業(中学校建替え)、事業活用調査(事業効果分析、事業モニタリング)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路事業(西城西宮原線)	県道に昇格したため、事業を削除した									
		提案事業	事業活用調査(事業モニタリング)	第2期計画等のアンケート調査により住民の意向を確認したため、事業を削除した									
新たに追加した事業	基幹事業	道路事業(塩野御代田停車場線②、浅間幹線、塩野区内線①、塩野区内線②、塩野区内線③、東台14号線、清緑苑1・2号線、向原12号線、上ノ林児玉線)、公園事業(やまゆり公園)高質空間形成施設事業(駅前広場公園トイレ)	【道路事業】安全な道路環境を構築するため、整備路線の精査を実施したため 【高質空間形成施設事業】駅前トイレをバリアフリー化することにより、まちのイメージアップを図るため										
	提案事業	地域創造支援事業(地域消防団詰所、北小学校グラウンド)	各地域の防災拠点であり、災害時において機能しなければ防災活動に支障をきたすことから、昭和56年以降の耐震設計基準により設計されていない施設の建て替えをする必要があり、事業を追加した。観光客の激減に対し、夏季の合宿誘致強化を進め交流人口の増加を図り、観光入込客数の増加を図るため事業を追加した。										
交付期間の変更	当初変更	平成21年度～平成25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期	
	指標1	「身近な生活道路の安全性」に対する満足度	%	15.0	H20	22.0	H25	—	63.7	○	あり なし	地区内の道路の幅や歩道の整備によって、誰もが安心して通行できる交通(自動車、歩行者)環境が向上したことが、「身近な生活道路の安全性」に対する満足度の増加に寄与したと言える。	—
	指標2	情報伝達者数	人	4,736	H20	13,376	H25	—	15,433	○	あり なし	町民の居住地全域に災害時の緊急情報が伝達できるよう、防災無線を整備したことが、情報伝達者数の増加に寄与したと言える。	—
指標3	観光入り込み客数	人/年	125,295	H19	137,800	H25	—	137,863	○	あり なし	利用者ニーズに対応した公園の整備や、主要箇所への方向を示す地域案内板を整備することで、来訪者が観光地を周遊しやすくなり、観光入り込み客数の増加に寄与したと言える。	H26.4	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値(比較値)		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)		予定時期	
	その他の数値指標1					—						—	
	その他の数値指標2					—						—	
その他の数値指標3					—						—		
4)定性的な効果発現状況	道路の幅により、離合しやすく、安全に通行できるようになったという意見があがっている。 歩道が整備されたことにより、安全に通学できるようになったという意見があがっている。 駅前広場公園トイレは、清潔で利用しやすいという意見があがっている。 御代田中学校の建替えにより、より安全な避難所ができ、防災意識が向上したという意見があがっている。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	【実施回数】6回 【実施時期】都市再生整備計画の変更時 都市再生整備計画の変更時に庁内の関係各課が集まり、事業の進捗及び中間段階での成果の確認を実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後もまちづくりに関する庁内の情報交換等を定期的で開催していく。	
	住民参加プロセス	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						なし	
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						なし	

様式2-2 地区の概要

御代田地区(長野県御代田町) 都市再生整備計画の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
「安全、安心して暮らせる定住基盤の形成」 小目標①:安心して通行できる交通体系の構築 小目標②:災害に強い安全なまちづくり 小目標③:御代田らしさの創出によるにぎわいづくり	「身近な生活道路の安全性」に対する満足度	単位: %	15.0	H20	22.0	H25	63.7	H25
	情報伝達者数	単位: 人	4,736	H20	13,376	H25	15,433	H25
	観光入り込み客数	単位: 人/年	125,295	H19	137,800	H25	137,863	H25
		単位:						
		単位:						



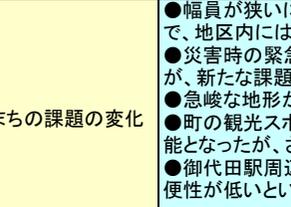
基幹事業(地域生活基盤施設)
下藤塚地区水路



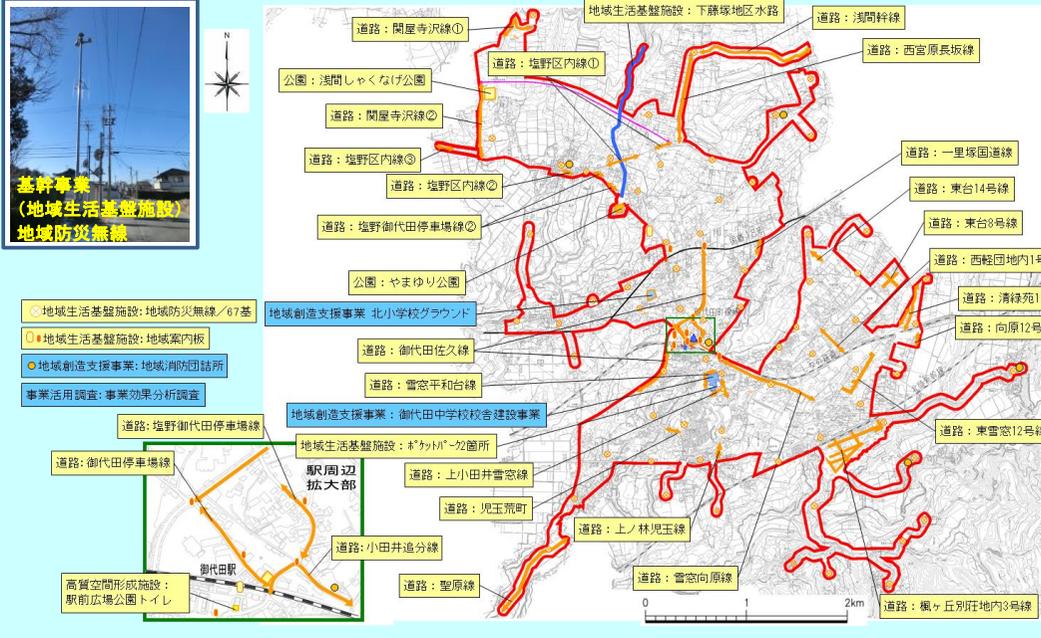
基幹事業(地域生活基盤施設)
地域防災無線



基幹事業(公園)
やまゆり公園



提案事業(地域創造支援事業)
御代田中学校建替事業



● 地域生活基盤施設: 地域防災無線/67基
○ 地域生活基盤施設: 地域案内板
● 地域創造支援事業: 地域消防団詰所
● 事業活用調査: 事業効果分析調査

● 地域生活基盤施設: 地域防災無線/67基
○ 地域生活基盤施設: 地域案内板
● 地域創造支援事業: 北小学校グラウンド
● 地域創造支援事業: 御代田中学校校舎建設事業

● 地域生活基盤施設: 地域防災無線/67基
○ 地域生活基盤施設: 地域案内板
● 地域創造支援事業: 北小学校グラウンド
● 地域創造支援事業: 御代田中学校校舎建設事業

● 地域生活基盤施設: 地域防災無線/67基
○ 地域生活基盤施設: 地域案内板
● 地域創造支援事業: 北小学校グラウンド
● 地域創造支援事業: 御代田中学校校舎建設事業



基幹事業(高質都市形成基盤施設)
駅前広場公園トイレ



基幹事業(地域生活基盤施設)
地域案内板



提案事業(地域創造支援事業)
地域消防団詰所



基幹事業(道路)
遠野御代田停車場線

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅員が狭いにもかかわらず、自動車交通量が多い路線や歩行者交通量が多い歩道未設置道路などが多く存在していたが、道路の拡幅や歩車道の分離等を実施したことにより、安全で快適な交通環境の向上が図られた。一方で、地区内には未整備路線が多数存在し、さらなる交通環境の向上が課題である。また、道路整備により、電柱が並列して設置されるなど、視認性と景観面が新たな課題となっている。 ● 災害時の緊急連絡が町民全員に行き届かない状況であったが、防災無線を町内居住地全域カバーできるように設置したため、防災性の向上が図られた。一方で、防災無線が風向き等によりハウリングをおこし、聞き取りにくいことが、新たな課題となっている。また、視聴覚障害者や在住外国人といった災害時要救護者に対する情報提供手段の検討が未解決の課題となっている。 ● 急峻な地形が多く、過去に土石流などの風水害が多く発生していたが、下藤塚地区の水路を整備することで、この地区の防災性は向上した。一方で、下藤塚地区より上流での土砂災害等への対応が未解決の課題となっている。 ● 町の観光スポットや行催事の連携が不十分であったが、浅間しゃくなげ公園ややまゆり公園の整備により、交流人口が増加し、まちのにぎわいの創出につながった。一方で、公園整備により大規模なマレットゴルフ大会の開催が可能となったが、さらなる交流人口の増加を図るための大会開催に向けた組織づくりが未解決の課題となっている。 ● 御代田駅周辺にバリアフリー対応のトイレがなく不便であったが、駅前にバリアフリー対応のトイレを整備することにより、誰もが暮らしやすい市街地の形成が図れた。一方、整備したトイレが駅舎から離れているため、雨天時の利便性が低いということが新たな課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● より安全で快適な道路空間の形成を図るため、未整備・未改修道路の整備を促進する。 ● 災害時要援護者への対応の検討やハウリングの解消に対する検討を行い、災害時の情報提供手段の強化を図る。 ● 下藤塚地区より上流は、国有地であり町での事業化は難しいため、治山事業等による水害・土砂災害対策の強化を実施し、防災性の向上を図る。 ● 大規模なマレットゴルフ大会を開催し、交流人口の増加を図るため、大会開催に向けた組織づくりへの支援を実施していく。 ● 御代田駅前の公共空間を、より利便性の高い空間とするため、駅舎周辺に屋根つきの通路を設置する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」:21.0% 「指標3 観光入り込み客数」:208,000人/年	「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」:22.0% 「指標3 観光入り込み客数」:137,800人/年	指標1については、道路整備する路線延長が御代田町内路線延長の約6%に相当する。よって、数値目標を従前値15%の6%増である21%と設定したが、路線の追加により、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、数値目標を1%増加させ22%に変更した。 指標3については、御代田町の観光の核となっていた「メルシャン軽井沢美術館」が平成23年度をもって閉館となり観光客が激減している。目標値は従前値より1割増加としていることから、従前値より平成19年美術館入館者数62,800人を控除した人数125,295人を従前値、これに対し1割増加の137,800人を目標値とした。
D. その他()	●		面積:972ha	面積:996ha	防災無線設置位置の再配置について検討した結果、エリアを拡大して設置する必要が生じたことから計画面積の変更を行った。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	小田井追分線	149.1	W=13m L=263m	857.8	W=9.25~13m L=350m	橋梁の構造条件の変更、夜間作業割り増し及び工期延長、安全対策の増加により事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。		●
	御代田停車場線	73.2	W=8m L=238m	157.9	W=8.5~10.3m L=245.9m	2車線交互通行、歩道の構造・幅員を変更したことにより、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	塩野御代田停車場線①	42.8	W=8.5m L=291m	140.6	W=11.5~14m L=190m	道路線形変更、両側歩道確保により、事業費が増加した。 用地買収が難航し、当初予定していた改良延長を290mから190mに変更した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。		●
	雪窓向原線	251.3	W=12m L=1,030m	385.1	W=12m L=1,030m	道路の高規格化により事業費が増加した。(用地交渉難航により事業削除予定)	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。		● (削除予定)
	西宮原長坂線	33.0	W=12m L=1,031m	101.8	W=7m L=949m	道路側溝の断面確保及び舗装厚の変更等により、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	西城西宮原線	101.3	W=7m L=2,106m	-	-	県道に昇格したため、事業を削除した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	-	-
	関屋寺沢線①	35.1	W=4m L=686m	32.7	W=4m L=695m	事業完了に伴う事業費精査により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	関屋寺沢線②	84.6	W=5m L=777m	113.4	W=4~6.5m L=781m	雨水排水の流末水路の構造変更により、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	一里塚国道線	17.7	W=6m L=156m	13.2	W=5.5~7m L=156m	事業完了に伴う事業費精査により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	御代田佐久線	91.5	W=8.6m L=1,543m	80.6	W=8.6m L=1,559m	事業完了に伴う事業費精査により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	西軽団地内1号線	21.1	W=5m L=305m	30.2	W=5m L=304m	取り付け道路の延長の増加、地中埋設物の処分費が増加したため、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	東台8号線	29.2	W=4m L=439m	32.2	W=4m L=436m	町道認定に伴い東台地区道路から名称変更。設計終了に伴う、事業精査により事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	東雪窓12号線	28.9	W=4m L=566m	31.7	W=4m L=613m	延長が増加したことに伴い、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	楓ヶ丘別荘地内3号線	44.2	W=4m L=2,000m	142.6	W=4m L=2,120m	全面舗装に加え、道路側溝等を設置し排水機能を高めるため事業を増加したことにより、事業費が増額した。(用地交渉難航により事業削除予定)	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。		● (削除予定)
	上小田井雪窓線	331.1	W=12m L=359m	253.7	W=12m L=316m	事業範囲の縮小により事業費が減少した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	尻玉荒町線	33.0	W=6.5m L=115m	46.7	W=12m L=180m	事業範囲の拡大により事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	聖原線	34.7	W=5m L=1,048m	50.2	W=5m L=1,044.4m	舗装構成及び幅員構造の変更により、事業費が増加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	

	雪窓平和台線	33.4	W=5m L=177m	29.2	W=5m L=198m	事業区域変更に伴い、延長が増加したが事業完了に伴う事業費精査により減額した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	塩野御代田停車場線②	-	-	31.3	W=4.0~14m L=258m	県施工による集落内道路に対するバイパス道路計画の中止に伴い、現道への接続工事を行う必要や一部について排水路整備を含めて拡幅工事を行う必要が生じたために事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	浅間幹線	-	-	67.1	W=5~6m L=1,148.1m	小諸市・軽井沢町をつなぐ道路の通行量が近年増加し路盤が弱いことが判明し、舗装をより厚くする必要が生じたため事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	塩野区内線①	-	-	129.5	W=7m L=550m	道路拡幅にあたり送水管の移設が必要となることに伴う事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。		●
	塩野区内線②	-	-	14.1	W=8.2m L=45.5m	幹線道路として路線内の幅員狭小部分の解消を行い、待避所として施工する事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	塩野区内線③	-	-	28.8	W=7m L=159.5m	幹線道路として路線内の幅員狭小部分の解消を行う事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	東台14号線	-	-	5.0	W=4m L=1,24.5m	未舗装道路の舗装工事と排水路整備の事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	清緑苑1・2号線	-	-	43.5	W=4m L=550m	幅員狭小部分の解消のため事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。		●
	向原12号線	-	-	3.0	W=4m L=96.4m	降雨時には土砂の流出等により危険がある未舗装道路での舗装工事を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
	上ノ林児玉線	-	-	78.8	W=10m L=265m	改良が完了した南側の県道との取り付け部分の改良が必要であり、安全確保のため歩道を設置する事業を追加した。	道路事業全体として、道路整備路線延長の割合が約1%増加となるため、「指標1 身近な生活道路の安全性に対する満足度」の数値目標を1%増加させ22%に変更した。	●	
公園	浅間しゃくなげ公園	15.5	13,000㎡	51.2	6,200㎡	園路の再配置、公園トイレの設置、植栽の増加や、駐車場からグラウンドへの園路整備の他、グラウンドゴルフ場への通路整備を行うことにより事業費が増加した。	「指標3 観光入り込み客数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。	●	
	やまゆり公園	-	-	62.5	14,000㎡	マレットゴルフ場、駐車場等の整備のため事業を追加した。	「指標3 観光入り込み客数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。	●	
地域生活基盤施設	地域防災無線	205.0	48基	99.0	67基(親機含)	予定した工事費より安価での落札となったため、事業費が減少した。	「指標2 情報伝達者数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。	●	
	ポケットパーク	34.7	343㎡	23.6	A=420㎡	事業の見直しにより、事業費が減少した。	「指標3 観光入り込み客数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。		●
	地域案内板	19.2	総合案内板2基+方向指示10基	19.2	総合案内板2基+方向指示10基	-	「指標3 観光入り込み客数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。		●
	下藤塚地区水路	92.3	L=939m	328.3	L=1,595m	水路の延長及び部分的に暗渠構造に変更したため、事業費が増加した。	「指標2 情報伝達者数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。		●
高質空間形成施設									
	駅前広場公園トイレ	-	-	30.0	A=150㎡	まち歩きの拠点となる駅前トイレをバリアフリー化することにより、まちのイメージアップを図るため事業を追加した。	「指標3 観光入り込み客数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	中学校建替え	951.3	校舎以外	954.1	校舎以外	事業完了に伴う事業費精査により事業費が増加した。	「指標2 情報伝達者数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。	●	
	地域消防団詰所	-	-	84.9	5箇所	各地域の防災拠点であり、災害時において機能しなければ防災活動に支障をきたすことから、昭和56年以降の耐震設計基準により設計されていない施設の建て替えを必要とあり、事業を追加した。	「指標2 情報伝達者数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。	●	
	北小学校グラウンド	-	-	12.6	A=8,000㎡	観光客の激減に対し、夏季の合宿誘致強化を進め交流人口の増加を図り、観光入込客数の増加を図るため事業	「指標3 観光入り込み客数」に影響するが、本事業の増減による影響はなし。		●
事業活用調査	事業効果分析	6.4	-	6.4	-	-	-		●
	事業モニタリング	8.8	-	-	-	第2期計画等のアンケート調査により住民の意向を確認したため、事業を削	影響なし。	-	-
まちづくり活動 推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
中学校建替え事業		御代田中学校校舎建設	2,197.8	2,197.8	H19～H23	H19～H23	完了	
道路整備事業		真楽寺進入路	-	27.5				
駐車場整備事業		真楽寺駐車場	-	41.2				

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		基準年度		モニタリング			モニタリング		あり	なし
指標1	「身近な生活道路の安全性」に対する満足度	%	-	-	15.0	H20	22.0	H25	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		63.7	事後評価	○	
指標2	情報伝達者数	人	-	-	4,736	H20	13,376	H25	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定	●	15,433	事後評価	○	
指標3	観光入り込み客数	人/年	-	-	125,295	H19	137,800	H25	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定	●	137,863	事後評価	○	
指標4			-	-					モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定			事後評価		
指標5			-	-					モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定			事後評価		
指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)							その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	地区内の道路の拡幅や歩道の整備により、誰もが安心・快適に移動できる交通体系の構築が進み、歩行者の安全性が高まったため、「身近な生活道路の安全性」に対する満足度が目標値を達成した。														
指標2	防災無線を整備することにより、緊急情報の伝達が町民の居住地全域に可能となったため、情報伝達者数の目標値を達成した。														
指標3	地域案内板や利用者ニーズに対応した公園整備により、来訪者が観光地を周遊しやすくなったために、観光入り込み客数の目標値を達成した。														
指標4															
指標5															

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値(比較値) (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1			-	-			モニタリング	-	-		
							事後評価	確定			
その他の 数値指標2			-	-			モニタリング	-	-		
							事後評価	確定			
その他の 数値指標3			-	-			モニタリング	-	-		
							事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

道路の拡幅により、離合しやすく、安全に通行できるようになったという意見があがっている。
 歩道が整備されたことにより、安全に通学できるようになったという意見があがっている。
 駅前広場公園トイレは、清潔で利用しやすいという意見があがっている。
 御代田中学校の建替えにより、より安全な避難所ができ、防災意識が向上したという意見があがっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
庁内検討会を定期的に開催し、事業成果について協議を行う。	予定どおり実施した	●【実施回数】6回 【実施時期】都市再生整備計画の変更時 都市再生整備計画の変更時に庁内の関係各課が集まり、事業の進捗及び中間段階での成果の確認を実施した。	今後もまちづくりに関する庁内の情報交換等を定期的に行っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	なし	なし
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
なし	予定どおり実施した	なし	なし	なし
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 「都市再生整備計画ワーキンググループ」	企画財政課、町民課、保健福祉課、産業経済課、建設課、消防課、総務課、税務課、会計課	平成25年8月27日	企画財政課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3	
指標名		「身近な生活道路の安全性」に対する満足度		情報伝達者数		観光入り込み客数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(小田井追分線)	◎	地区内の道路の拡幅や歩道の整備によって、誰もが安心して通行できる交通(自動車、歩行者)環境が向上したことが、「身近な生活道路の安全性」に対する満足度の増加に寄与したと言える。	◎	町民の居住地全域に災害時の緊急情報が伝達できるよう、防災無線を整備したことが、情報伝達者数の増加に寄与したと言える。	◎	利用者ニーズに対応した公園の整備や、主要箇所への方向を示す地域案内板を整備することで、来訪者が観光地を周遊しやすくなり、観光入り込み客数の増加に寄与したと言える。
	道路事業(御代田停車場線)	◎					
	道路事業(増野御代田停車場線(1))	◎					
	道路事業(雪窓向原線)	◎					
	道路事業(西宮原長坂線)	◎					
	道路事業(開原寺次線(1))	◎					
	道路事業(開原寺次線(2))	◎					
	道路事業(一里塚国道線)	◎					
	道路事業(御代田佐久線)	◎					
	道路事業(西鞍向地内1号線)	◎					
	道路事業(東谷8号線)	◎					
	道路事業(東雪窓12号線)	◎					
	道路事業(櫛ヶ丘別荘地内3号線)	◎					
	道路事業(上小田井雪窓線)	◎					
	道路事業(原玉荒野線)	◎					
	道路事業(期原線)	◎					
	道路事業(雪窓平和谷線)	◎					
	道路事業(増野御代田停車場線(2))	◎					
	道路事業(浅間鞍線)	◎					
	道路事業(増野区内線(1))	◎					
	道路事業(増野区内線(2))	◎					
	道路事業(増野区内線(3))	◎					
	道路事業(東谷14号線)	◎					
	道路事業(清緑苑1・2号線)	◎					
	道路事業(向原12号線)	◎					
	道路事業(上ノ林原土線)	◎					
	公園事業(浅間しゃくばけ公園)	◎					
	公園事業(やまゆり公園)	◎					
	地域生活基盤施設事業(地域防災無線)	◎					
	地域生活基盤施設事業(ポグネットパーク)	◎					
地域生活基盤施設事業(地域案内板)	◎						
地域生活基盤施設事業(下藤塚地区水路)	◎						
高質空間形成施設事業(駅前広場公園トイレ)	◎						
地域創造支援事業(中学校建替え)	◎						
地域創造支援事業(地域消防団詰所)	◎						
地域創造支援事業(北小学校グラウンド)	◎						
地域創造支援事業(事業効果分析)	◎						
関連事業	中学校建替え事業	◎		◎		◎	
	道路整備事業	◎		◎		◎	
	駐車場整備事業	◎		◎		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	学校や公共施設などへのアクセス道路において、歩道・路側帯の整備を推進する。	防災訓練への参加者の増加を図り、防災無線のPRを実施する。	主要観光施設へのアクセス性の向上を図るための道路整備や観光PRなどのソフト事業を実施する。
-------	---------------------------------------	-------------------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 「都市再生整備計画ワーキンググループ」	企画財政課、町民課、保健福祉課、産業経済課、建設課、消防課、総務課、税務課、会計課	平成25年8月27日	企画財政課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
安全で快適な交通(自動車、歩行者)環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●道路及び橋梁の拡幅、歩道の設置により、交通の安全性及び利便性の向上が図れた。 ●主要幹線道路へのアクセス性の向上が図れた。 ●舗装の凸凹、ひび割れ、轍掘れの解消により通行の安全性の向上が図れた。 ●歩車道が分離構造となり、車両の交互通行及び歩行者の安全確保が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地区内の未整備路線の整備による、さらなる安全で快適な交通環境の創出が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道路の整備により、電柱が並列して設置されている場所があり、交通安全上の視認性と景観を阻害している。 ●防災無線で、風向きなどによってはハウリングが発生し、放送内容が聞き取りにくい。 ●御代田駅前のトイレが駅舎より数十m離れているため、雨天時の利便性が低い。
安全な暮らしを支える防災性能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●道路側溝の整備により、雨水の排水性が向上し、近隣住宅地の防災性の向上が図れた。 ●未舗装道路の解消により、路面洗掘や沿線の降雨水害が減少するとともに、維持管理費の縮減が図れた。 ●防災無線の町内居住地全域をカバーできるようになったため、町からの情報提供が一斉に町民に届けられるようになり、防災性の向上が図られた。 ●御代田中学校のグラウンド等が整備されたことにより、災害時に多くの住民が避難する施設が確保された。 ●下藤塚地区水路を整備することで、計画降水量に沿った流下能力を確保でき、水害及び土砂災害の未然防止が図られた。 ●消防団詰所の整備により、地域住民に対する防災における拠点が設けられ、安心・安全への意識が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●視聴覚障害者や在住外国人といった災害時要援護者に対する情報提供手段の検討が必要である。 ●下藤塚地区より上流域での水害・土砂災害等へ対応による、さらなる防災性の向上が必要である。 	
交流人口(観光客等)の増加促進	<ul style="list-style-type: none"> ●浅間しゃくなげ公園・やまゆり公園の整備により、交流人口の増加につながった。 ●地域情報板に主要な施設を表示することで、観光客等の利便性の向上が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●やまゆり公園の整備により、大規模なマレットゴルフ大会の開催が可能となったが、さらなる交流人口の増加を図るため、大会開催に向けた組織づくりが必要である。 	
潤いのある暮らしやすい市街地の形成	<ul style="list-style-type: none"> ●御代田駅前にバリアフリーのトイレを整備することにより、誰もが利用しやすく、駅前において質の高い公共空間が形成された。 ●道路用地を有効活用したポケットパークを整備したことで、地域住民の憩いの場として暮らしの中で活用されている。 	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	歩車分離空間の整備促進	安全な歩道空間の創出を図るため、歩行者道と自動車道の分離を推進する。	道路整備・改修工事
	防災対策の強化	防災意識の向上を目指し、自主防災活動や防災訓練に対する支援を実施する。	地域住民と連携した防災活動の検討
	未整備・未改修道路の整備促進	主要な観光施設へのアクセス性の向上を目指し、未整備・未改修道路の整備を促進する。	道路整備・改修工事

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	未整備・未改修道路の整備促進	未整備・未改修道路の整備を促進し、より安全で快適な道路空間の形成を図る。	道路整備・改修工事
	災害時の情報提供手段の強化	災害時要援護者への対応やハウリングの解消を行い、災害時の情報提供手段の強化を図る。	災害時要援護者に対する効果的情報提供手段の検討 ハウリング解消に対する検討
	水害・土砂災害への対応強化	下藤塚地区より上流は、国有地であり町での事業化は難しいため、治山事業等による水害・土砂災害対策の強化を実施し、防災性の向上を図る。	治山事業の強化
	大規模なマレットゴルフ大会の開催	大規模なマレットゴルフ大会を開催し、交流人口の増加を図るため、大会開催に向けた組織づくりへの支援を実施していく。	マレットゴルフ大会開催に向けた組織づくり支援
	御代田駅前空間の利便性向上	御代田駅前の公共空間を、より利便性の高い空間とするため、駅舎周辺に屋根つきの通路を設置する。	御代田駅周辺整備事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	「身近な生活道路の安全性」に対する満足度	%	15.0	H20	22.0	H25	確定	63.7	○	あり	-	-	-
							見込み ●						
指標2	情報伝達者数	人	4,736	H20	13,376	H25	確定 ●	15,433	○	あり	-	-	-
							見込み						
指標3	観光入り込み客数	人/年	125,295	H19	137,800	H25	確定	137,863	○	あり	H26.4	平成25年度における町内の主要観光施設の観光入り込み客数を調査する。	-
							見込み ●						
指標4		0	0	0	0	0	確定	0	0	あり	-	-	-
							見込み						
指標5		0	0	0	0	0	確定	0	0	あり	-	-	-
							見込み						
その他の数値指標1		0	0	0	0		確定	0			-	-	-
その他の数値指標2		0	0	0	0	0	確定	0			-	-	-
							見込み						
その他の数値指標3		0	0	0	0	0	確定	0			-	-	-
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	「身近な生活道路の安全性」に対する満足度、情報伝達者数、観光入り込み客数は、数値のけいそくが用意であり、達成状況を確認する際、明確であった。 また、事業途中でモニタリングを実施し、事業の変更に伴い、適宜数値目標の修正を行った。	事業の途中段階でモニタリングを実施し、数値目標の妥当性の検討をすることが望ましい。
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	「身近な生活道路の安全性」に対する満足度、情報伝達者数は、事業の効果が指標の改善に明確に現れている。	指標の設定には、目標と指標の関係を整理したうえで設定することが重要である。 また、直接的な目標設定が困難な場合は、アンケート調査などが効果的である。
	うまく いかなかった点	観光入り込み客数については、景気やイベント時の天候などに影響を受けやすいため、評価が難しい点があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		住民参加は、まちづくりを行っていくうえで、事業の質的向上や円滑化を図るうえで有効であり、定期的な住民との意見交換の場を設定していく必要がある。
	うまく いかなかった点	都市再生整備計画に住民参加プロセスを記述していないため、事業実施期間中に住民の意見を取り入れながら効果的な対策を講じることができなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	観光入り込み客数については、今後も継続的に計測し、長期的な評価を行っていくことができる。 事業途中でモニタリングを実施し、事業の中間評価や目標値の妥当性の確認を行ったため、PDCAサイクルで事業の推進を行うことができた。	目標達成進捗の定期的な確認が可能なものを数値目標として設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	事業途中で、住民の意見を取り入れることが必要であった。	
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金活用予定
第2期 御代田地区都市再生整備計画

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成25年1月10日～1月23日	平成25年1月10日～1月23日	担当課への 電話、FAX、電子メール	企画財政課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課での閲覧	平成25年1月10日～1月23日	平成25年1月10日～1月23日		
住民の意見	なし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	山岸 孝一(都市計画審議会会長)	平成26年2月3日	企画財政課	社会資本整備総合交付金評価委員会	社会資本整備総合交付金評価委員会
その他の委員	小井土 哲雄(町民建設経済常任委員会委員長) 柏木 昭憲(御代田町商工会会長)				
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。			
	成果の評価	・指標1において、目標値22%を大きくクリア(63.7%)しているが、御代田町の道路の現状をみると、まだまだ整備が足りないのではないかと、という意見があった。道路整備については、第2期都市再生整備計画でも継続して取り組み、さらなる町民の満足度向上に努めることを説明し、委員の理解を得た。 ・指標3において、目標値137,800人を63人クリアしただけで事業の効果がでていると判断できるのか、という意見があった。従前値よりは約10%増加していること、今後も継続して効果を計測していくという説明を行い、委員の理解を得た。			
	実施過程の評価	実施過程については、適性であると確認された。			
	効果発現要因の整理	特になし。			
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案は、町民に対して適性に公表されたことが確認された。			
	その他	特になし。			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると確認された。			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	道路整備や公園整備などは、実施されているが、それぞれがネットワークとして機能していない、今後はそれらを結び付けていくような整備や仕掛けを検討していく必要があるという意見があった。			
	フォローアップ	フォローアップの計画については、妥当であると確認された。			
	その他	特になし。			
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。			
その他	特になし。				

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第6回変更)

み よ た
御代田地区

長野県 み よ た まち
御代田町

平成 25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	御代田町	地区名	御代田地区	面積	996 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標

「安全、安心して暮らせる定住基盤の形成」

- 小目標①:安心して通行できる交通体系の構築
- 小目標②:災害に強い安全なまちづくり
- 小目標③:御代田らしさの創出によるにぎわいづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・御代田地域は、日本屈指の活火山である浅間山(標高2,568m)の南麓に広がる地域にあり、58.78km²の面積の5割以上を山林が占める。町の主な地域は標高800~900m前後に広がり、乾燥した空気のため、暑さを体感せず軽井沢町と同様に避暑地として適している。
- ・県下有数の高原野菜の産地、精密工業の町として発展しており、人口は14,398人、世帯数は5,675世帯(平成20年10月1日現在)で、周辺地域のベットタウンとして今なお増加基調にある。
- ・幅員が狭いにも関わらず自動車交通量の多い路線や歩行者交通量が多い歩道未設置道路なども多く存在し、歩道もネットワーク化されていないなど、道路環境に問題を抱えている。
- ・豊かな自然環境の他、「メルシャン軽井沢美術館」「浅間縄文ミュージアム」といった観光スポットを持ち、また、毎年7月の最終土曜日に開催され、御代田の代表的な夏祭りとして定着している「龍神まつり」、『拝領人形』の伝承と宿場が誕生400年を記念して始められた「小田井宿まつり」、草越地区に伝わる伝統行事で平成元年に県無形民俗文化財に指定された「草越の寒の水」などの行祭事も豊富である。
- ・しかしながら、御代田町の観光スポットや行催事の連携が不十分であり、PRも少ないなどの理由から、御代田町としての知名度は全国的に低い状況である。
- ・急峻な地形となっていることもあり、過去に土石流が発生するなど、台風等による水害も多く発生している地域である。平成19年に発生した台風9号の際には、町内215箇所で土砂崩れ等の災害が発生している。
- ・既存のオフピーク通信では、災害や緊急時の対応に対して不十分である。
- ・地域防災無線については、平成20年に有識者や地域住民による検討会を設置し、当地区において最適な方式の検討がされてきている。
- ・平成20年度には、住民と協働によるまちづくりを目指して町民ワークショップを開催し、ワークショップにおいて「御代田駅周辺地区まちづくりビジョン提言書」が作成されている。その提言書の内容を踏まえながら庁内作業部会、推進会議において「御代田町まちづくり基本計画」を策定し、その中で短期的な取組みが必要と判断された事業について本都市再生整備計画に位置づけを行っている。
- ・平成21年2月には、事前評価を兼ねたまちづくりアンケートを予定している。

課題

1. 安全で快適な交通(自動車、歩行者)環境の向上
2. 潤いのある暮らしやすい市街地の形成
3. 交流人口(観光客等)の増加促進
4. 安全な暮らしを支える防災性能の向上

将来ビジョン(中長期)

「第4次御代田町長期振興計画」において、超長期目標を『2万人公園都市構想』と掲げ、「豊かな自然と温かい心が響きあい 新たな未来(ゆめ)を創造する 文化・高原公園都市 御代田」を将来像にしている。その具現化に向けて策定された「御代田町まちづくり基本計画」においては、概ね5年以内には、市街地内の活動を支え、拠点的な施設を結び、安全で快適な道路環境の整備を進めるとともに、防災行政無線の整備などにより、安全、安心して暮らせる市街地の形成をめざす。また、教育施設を整備するなど、定住促進に向けた都市機能の価値向上を推進する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
「身近な生活道路の安全性」に対する満足度	%	アンケート調査による「身近な生活道路の安全性」に対する満足度の向上	道路空間の整備によってもたらされる歩行時の安心感を満足度として指標化する	15.0	H20	22.0	H25
情報伝達者数	人	緊急情報伝達手段を用いて発信した情報が伝達された住民の数	防災関連施設の整備によって情報伝達を受ける住民の数が向上することを指標化する	4,736	H20	13,376	H25
観光入り込み客数	人/年	御代田町の主要な観光施設の観光客入り込み数の増加	御代田ならではの地域資源を発掘し、御代田駅周辺を活性化することの成果を観光入込数として捉え、その増加をめざす	125,295	H19	137,800	H25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>① 安心して通行できる交通体系の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車社会が進展する中で、御代田町に住む人、訪れる人が安全であり、かつ安心でき、快適に移動できるような交通体系を構築していくため、道路整備を推進する。 ・また、歩道を整備することにより、歩行者の安全性を確保するとともに、歩道のネットワーク化を推進する。 	<p>①小田井追分線(基幹事業)、御代田停車場線(基幹事業)、塩野御代田停車場線①(基幹事業)、塩野御代田停車場線②(基幹事業)、雪窓向原線(基幹事業)、西宮原長坂線(基幹事業)、浅間幹線(基幹事業)、関屋寺沢線①(基幹事業)、関屋寺沢線②(基幹事業)、一里塚国道線(基幹事業)、御代田佐久線(基幹事業)、西軽団地内1号線(基幹事業)、東台8号線(基幹事業)、東雪窓12号線(基幹事業)、楓ヶ丘別荘地内3号線(基幹事業)、上小田井雪窓線(基幹事業)、児玉荒町線(基幹事業)、聖原線(基幹事業)、雪窓平和台線(基幹事業)、塩野区内線①(基幹事業)、塩野区内線②(基幹事業)、塩野区内線③(基幹事業)、東台14号線(基幹事業)、清緑苑1・2号線(基幹事業)、向原12号線(基幹事業)、上ノ林児玉線(基幹事業)</p>
<p>② 災害に強い安全なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅間活火山の麓でも安全に安心して暮らせるよう、地域防災無線や避難機能を兼ね備えた中学校関連施設等の整備などにより、災害に対応した安全なまちづくりを進めていく。 ・台風等の自然災害より被害の発生した道路や水路の復旧・機能強化を図り、安全な道路網の構築、防災機能強化を図る。 	<p>①小田井追分線(基幹事業)、御代田停車場線(基幹事業)、塩野御代田停車場線①(基幹事業)、塩野御代田停車場線②(基幹事業)、雪窓向原線(基幹事業)、西宮原長坂線(基幹事業)、浅間幹線(基幹事業)、関屋寺沢線①(基幹事業)、関屋寺沢線②(基幹事業)、一里塚国道線(基幹事業)、御代田佐久線(基幹事業)、西軽団地内1号線(基幹事業)、東台8号線(基幹事業)、東雪窓12号線(基幹事業)、楓ヶ丘別荘地内3号線(基幹事業)、上小田井雪窓線(基幹事業)、児玉荒町線(基幹事業)、聖原線(基幹事業)、雪窓平和台線(基幹事業)、塩野区内線①(基幹事業)、塩野区内線②(基幹事業)、塩野区内線③(基幹事業)、東台14号線(基幹事業)、清緑苑1・2号線(基幹事業)、向原12号線(基幹事業)、上ノ林児玉線(基幹事業)</p> <p>②地域防災無線(基幹事業)</p> <p>③下藤塚地区水路(基幹事業)</p> <p>④御代田中学校(提案事業)</p> <p>⑤地域消防団詰所(提案事業)</p>
<p>③ 御代田らしさの創出によるにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域案内板を整備し、「龍神まつり」等の祭事PRをすると共に、主要箇所方向指示を設置することで、来訪者により多くの観光地点を回ってもらえるようにし、各観光地点との連携を図る。 ・来訪者が車や徒歩により観光施設を周遊する際にも利用できるように、利用者のニーズに対応した公園を整備する。 	<p>①浅間しゃくなげ公園(基幹事業)</p> <p>②ポケットパーク(基幹事業)</p> <p>③地域案内板(基幹事業)</p> <p>④やまゆり公園(基幹事業)</p> <p>⑤駅前広場公園トイレ(基幹事業)</p> <p>⑥御代田北小学校(提案事業)</p> <p>⑦事業効果分析(事後評価調査)(提案事業)</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け中・長期の目標達成を目指し、継続したまちづくり交付金事業の活用も含め検討を行うものとする。なお、その検討にあたっては引き続き庁内作業部会を存続させていく予定としている。 <p>○交付期間中の計画の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、庁内において検討会を今後も定期的に実施し、事業成果についても検討会を実施する。 	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	4,572.4	交付限度額	1,828.9	国費率	0.400	(金額の単位は百万円)
---------	---------	-------	---------	-----	-------	-------------

基幹事業	金浦地区	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路	小田井追分線	御代田町	直	W=9.25~13m L=350m	平成21年度	平成25年度	平成21年度	平成25年度	857.8	857.8	857.8	0.0	857.8		
	御代田停車場線	御代田町	直	W=8.5~10.3m L=245.9m	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度	157.9	157.9	157.9	0.0	157.9		
	塩野御代田停車場線①	御代田町	直	W=11.5~14m L=190m	平成22年度	平成25年度	平成22年度	平成25年度	140.6	140.6	140.6	0.0	140.6		
	塩野御代田停車場線②	御代田町	直	W=4.0~14m L=258m	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	31.3	31.3	31.3	0.0	31.3		
	雪窓向原線	御代田町	直	W=12m L=1,030m	平成21年度	平成25年度	平成21年度	平成25年度	385.1	385.1	385.1	0.0	385.1		
	西宮原長坂線	御代田町	直	W=7m L=949m	平成21年度	平成23年度	平成21年度	平成23年度	101.8	101.8	101.8	0.0	101.8		
	浅間幹線	御代田町	直	W=5~6m L=1148.1m	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	67.1	67.1	67.1	0.0	67.1		
	関屋寺沢線①	御代田町	直	W=4m L=695m	平成21年度	平成21年度	平成21年度	平成21年度	32.7	32.7	32.7	0.0	32.7		
	関屋寺沢線②	御代田町	直	W=4~6.5m L=781m	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度	113.4	113.4	113.4	0.0	113.4		
	一里塚国道線	御代田町	直	W=5.5~7m L=156m	平成21年度	平成21年度	平成21年度	平成21年度	13.2	13.2	13.2	0.0	13.2		
	御代田佐久線	御代田町	直	W=8.6m L=1599m	平成21年度	平成21年度	平成21年度	平成21年度	80.6	80.6	80.6	0.0	80.6		
	西軽団地内1号線	御代田町	直	W=5m L=304m	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	30.2	30.2	30.2	0.0	30.2		
	東台8号線	御代田町	直	W=4m L=436m	平成22年度	平成22年度	平成22年度	平成22年度	32.2	32.2	32.2	0.0	32.2		
	東雪窓12号線	御代田町	直	W=4m L=613m	平成21年度	平成21年度	平成21年度	平成21年度	31.7	31.7	31.7	0.0	31.7		
	楓ヶ丘別荘地内3号線	御代田町	直	W=4m L=2120m	平成22年度	平成25年度	平成22年度	平成25年度	142.6	142.6	142.6	0.0	142.6		
	上小田井雪窓線	御代田町	直	W=12m L=316m	平成21年度	平成24年度	平成21年度	平成24年度	253.7	253.7	253.7	0.0	253.7		
	児玉荒町線	御代田町	直	W=12m L=180m	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	46.7	46.7	46.7	0.0	46.7		
	聖原線	御代田町	直	W=5m L=1044.4m	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度	50.2	50.2	50.2	0.0	50.2		
	雪窓平和台線	御代田町	直	W=5m L=198m	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度	29.2	29.2	29.2	0.0	29.2		
	塩野区内線①	御代田町	直	W=7m L=550m	平成23年度	平成25年度	平成23年度	平成25年度	129.5	129.5	129.5	0.0	129.5		
	塩野区内線②	御代田町	直	W=8.2m L=45.5m	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	14.1	14.1	14.1	0.0	14.1		
	塩野区内線③	御代田町	直	W=7m L=159.5m	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	28.8	28.8	28.8	0.0	28.8		
	東台14号線	御代田町	直	W=4m L=124.5m	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	5.0	5.0	5.0	0.0	5.0		
	清緑苑1・2号線	御代田町	直	W=4m L=550m	平成23年度	平成25年度	平成23年度	平成25年度	43.5	43.5	43.5	0.0	43.5		
	向原12号線	御代田町	直	W=4m L=96.4m	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	3.0	3.0	3.0	0.0	3.0		
	上ノ林児玉線	御代田町	直	W=10m L=265m	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	78.7	78.7	78.7	0.0	78.7		
公園	浅間しゃくなげ公園	御代田町	直	6,200㎡	平成22年度	平成24年度	平成22年度	平成24年度	51.2	51.2	51.2	0.0	51.2		
	やまゆり公園	御代田町	直	14,000㎡	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	62.5	62.5	62.5	0.0	62.5		
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設	ポケットパーク	御代田町	直	A=420㎡	平成21年度	平成25年度	平成21年度	平成25年度	23.6	23.6	23.6	0.0	23.6		
	地域情報板	御代田町	直	総合案内板2基 方向指示10基	平成25年度	平成25年度	平成25年度	平成25年度	19.2	19.2	19.2	0.0	19.2		
	下藤塚地区水路	御代田町	直	L=1,595m	平成21年度	平成25年度	平成21年度	平成25年度	328.3	328.3	328.3	0.0	328.3		
	防災無線	御代田町	直	67基(観機舎)	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	99.0	99.0	99.0	0.0	99.0		
	駅前広場公園トイレ	御代田町	直	A=150㎡	平成24年度	平成24年度	平成24年度	平成24年度	30.0	30.0	30.0	0.0	30.0		
高質空間形成施設															
高次都市施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										3,514.4	3,514.4	3,514.4	0.0	3,514.4	
提案事業															
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造支援事業	中学校建替え	御代田中学校	御代田町	直	校舎以外	平成21年度	平成23年度	平成21年度	平成23年度	954.1	954.1	954.1	0.0	954.1	
	地域消防団詰所	地域消防団詰所	御代田町	直	—	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	84.9	84.9	84.9	0.0	84.9	
	北小学校グラウンド	御代田北小学校	御代田町	直	A=8,000㎡	平成25年度	平成25年度	平成25年度	平成25年度	12.6	12.6	12.6	0.0	12.6	
事業活用調査	事業効果分析	事業効果分析(事後評価調査)	御代田町	直	—	平成25年度	平成25年度	平成25年度	平成25年度	6.4	6.4	6.4	0.0	6.4	
まちづくり活動推進事業															
合計										1,058.0	1,058.0	1,058.0	0.0	1,058.0	
													合計(A+B)	4,572.4	

都市再生整備計画の区域

御代田地区(長野県御代田町)

面積	996 ha	区域	○馬瀬口字長坂の一部・宇普賢山落の一部・字三ツ谷の一部・字寺沢の一部・字馬瀬口の一部・字小沼の一部・字八ヶ倉の一部・字旭町の一部・字桜ヶ丘、○塩野字一里塚の一部・清万の一部、○御代田字桜ヶ丘・字平和台・字大林の一部・字小田井・字小田井上宿の一部・字西軽井沢の一部・東雪窓の一部、山の神の一部○草越字向原の一部・字草越の一部・字常盤台の一部、○豊昇字久能の一部・梨沢の一部○広戸字広戸の一部
----	--------	----	--

